

アイヌ新法成立2年

アイヌ施策振興法（新法）が成立して2年経ちました。5月連休にコロナ感染防止対策をとりながらはたやま和也衆院比例候補とともに札幌市アイヌ協会の小川早苗さんを訪ねました。アイヌ民族の刺繍や衣装などを見ながら、美しさ、多彩さ、量の多さに驚かされます。「これは、母やフチ（おばあさん）から譲り受けて私が作ったのよ」という早苗さん。先祖代々、大切に受け継がれた技術です。ご自分のアイデアの作品も多く、指が変形するくらい、



札幌市アイヌ協会・小川早苗さんのアトリエにて。右ははたやま和也衆院比例候補

一針一針、丁寧な手作業で生み出された作品群に強く感銘を受けました。その後、阿部一司（元アイヌ協会副会長）さんも同席し要請書を受け取りました。



参院議員
紙 智子

アイヌ政策検討市民会議代表の丸山博さん（アイヌ研究者、室蘭工大名誉教授）との懇談も貴重でした。市民会議は「2016年、国連の『先住民族宣言』に依拠して、アイヌ政策について開かれた場で批判的に検討することを目的に発足しました。アイヌ新法に先住民族の言葉が入ったが、国連宣言の水準からはほど遠い」と言われます。私は国会で、政府に消滅の危機にあるアイヌ語を母語として話す話者を育てるよう求めたことを報告。うかがったお話は新法の見直しに生かせるようにしたいと思います。

女性国会議員



榎葉・宝鏡寺を訪ねて

東京電力福島第一原発事故から10年となった3月11日。福島県榎葉町の宝鏡寺に、原発悔恨・伝言の碑が建てられ、上野の東照宮で30年灯されてきた「広島・長崎の火」が、「非核の火」として引き継がれました。宝鏡寺住職の早川篤雄さんは、40年にわたり地元で原発に反

対し、福島原発避難者訴訟原告団長をされています。お連れ合いの早川千枝子さんは、以前「女性のひろば」で榎葉町の状



宝鏡寺の「非核の火」の横で

況を絵手紙とともに紹介されていました。

先日、宝鏡寺にうかがいました。榎葉町は原発事故で全町避難を余儀なくされ、15年9月に避難指示が解除されましたが、居住率は約6割。3月の予算委員会でも、政府と東京電力に対して、原発事故による「ふるさと喪失・変容」損害を認めるよう迫りました。「ふるさと」は場所というだけでなく、土地の空気や匂い、景色やコミュニティ、祭りといった伝統文化など、継承されてきたものでもあります。原発事故は「ふるさと」を奪い、変えてしまいました。

事故の反省と言いながら、脱炭素を口実に原発を推進しようとする政府。建物や展示も手作りの「伝言館」も見ながら、原発ゼロの実現を改めて決意しました。みなさんにも訪れていただけたらと思います。



参院議員
いわぶち友